

## 促成接ぎ木トマトの品質向上

### 第1報 育苗時の水分と施肥量について

森田敏雅・石田豊明・\*青木和年・北嶋秀臣 (熊本県農業試験場園芸支場, \*熊本県農政部)

Toshimasa MORITA, Toyooki ISHIDA, Kazutoshi AOKI and Hideomi KITAJIMA :

For Good Quality of Tomato on Grafting in Forcing Culture.

#### 1. Amount of Soil Moisture and Nitrogen Fertilizer in Raising Seedling

熊本県の促成トマト栽培では、トマト萎ちょう病(レースJ<sub>3</sub>)が発生し、その被害面積は1977年には約100haにおよび、その対策として抵抗性台木を利用した接ぎ木栽培が導入され、普及している。この抵抗性台木への接ぎ木により、トマト萎ちょう病(レースJ<sub>3</sub>)の発生は抑制されたが、抵抗性台木は強勢のため草勢調節が困難で、かつ寡日照時の栽培であるため空洞果等の多発による形状品質の低下が著しく、品質向上対策技術の確立が強く要請されている。

そこで、育苗期間中の土壌水分と施肥量の影響について検討したのでその概要を報告する。

#### 1. 試験方法

1) 試験Ⅰ 1982年9月6日播種で供試品種は大型瑞光とし、台木の種類はKCFT-N2号と瑞健、鉢土の水分はpF1.5, pF2.0, pF2.5, 窒素の施肥量は0.5g/l, 0.3g/l, 0.1g/lとし、これらを組合せて実施した。

2) 試験Ⅱ 1983年9月10日播種で供試品種は大型瑞光(台木KCFT-N2号)と強力旭光(台木KNVF)、鉢土の水分はかん水点pF2.0, pF2.3, 窒素の施肥量は0.5g/l, 0.3g/lとし、これらを組合せてL<sub>16</sub>直交表利用で実施した。

試験区はパーライトを充填した有底床に5号の素焼鉢を埋設した状態で設定した。

#### 2. 試験結果

1) 育苗期間中の土壌水分の多少は生育、収量および品質に影響を与え、多水分程草勢が強く過繁茂となり、空洞果の多発と減収を招いた。したがって、育苗期間中の適正pF値は、2.0前後であると考えられた。

2) 施肥量については、少肥では明らかに窒素不足現象が現れ、生育が悪く、果実の小形化、空洞果の増加など収量、品質面にも影響があった。多肥では、草勢が強くなりすぎるため、床土1 l中の窒素成分量としては、0.3gが適当であった。

3) 強力旭光は大型瑞光に比べ、収量の面で優れたが空洞果の多発等品質面で問題が残し、品種についてはさらに検討の必要がある。

4) 大型瑞光を穂木にした場合の台木は、草勢の強弱と関係があり、瑞健がKCFT-N2号に比べ明らかに草勢の調節がしやすいので、草勢調節が困難な場所での利用は有望である。しかし、地下水位が低い所や排水対策が十分な所では、KCFT-N2号の方が収量、品質などの面で優れ有利であると考えられた。

第1表 収 量 (試験Ⅱ)

1区5株収量(kg)

試 験 区	可 販 果								合 計		可販果率 %	秀品率 %	
	秀		優		小		格 外 果		個 数	重 量			
要 因 水 準	個 数	重 量	個 数	重 量	個 数	重 量	個 数	重 量	個 数	重 量	%	%	
品 種	瑞 光	25.1	4.16kg	29.6	5.37kg	54.8	9.53kg	48.6	7.98kg	100.4	17.52kg	56.1	24.8
	旭 光	40.4	6.24	51.8	8.11	92.1	14.27	49.1	5.97	135.6	20.24	70.3	30.5
土 壌 水 分	pF2.0	36.1	5.78	38.8	6.24	74.9	12.00	54.0	6.51	119.1	18.50	65.5	31.7
	pF2.3	29.4	4.62	42.6	7.24	72.0	11.80	43.7	7.45	116.9	19.25	60.9	23.7
施 肥	N 0.5	32.9	5.39	38.3	6.45	71.1	11.78	53.9	7.41	118.2	19.19	62.1	28.7
	N 0.3	32.6	5.01	43.1	7.03	75.8	12.22	43.8	6.54	117.8	18.57	64.3	26.6
SCHÉFF	5 %	9.8	1.37	6.6	0.91	14.2	1.93	N.S	1.83	12.7	2.72		
	1 %	14.0	1.97	9.4	1.31	—	2.77		—	18.3	—		